自立して生きていくために

ＰＴＡ副会長　坂口清敏

「今，高校の授業で学んでいることの多くは，何のためか？」
私自身も高校生の頃に疑問に思ったことがあったように思います。高校生にこの問いかけをしたら「大学受験のため」と答える人が多いかもしれません。確かに，このこと自体は間違ってはいません。では中学時代に同じ質問をされたら？「高校受験のため」でしょうか？　では，小学生の時なら何と答えていたでしょう。中学受験のため，あるいは大学受験のためと答えた人もいるかもしれませんが，多くの人はおそらく，自分が大人になった時の職業，いわゆる「夢」をイメージし，その実現のためにとの答えが返ってきていたのではと思います。あるいは，立派な大人になるためといったような，漠とした夢の実現ためと答えたかしれません。

でも，同じ人が中学，高校と進むにつれて，学校で学んでいることの多くは「受験のため」と統一的な考えになっていくのはどうしてでしょう。好意的な見方をすれば，漠とした夢が具体的な目標になったと捉えることはできます。目標達成のための具体的な目的を設定し，必要なことを学んでいると言えそうです。ただ，その目的が「受験のため」ではあまりにも目先にとらわれすぎていないでしょうか。それでは，大学に行く理由は何でしょうか？「夢実現のため」，「良い企業に就職するため」，「みんなが行くから」「大学くらい出ていないと・・」・・・？

数学にせよ国語にせよ，高校までの学校教育で学ぶものは受験のためだけに存在するものではありません。これら全ての科目は，地球上の人間社会で自立して生きていくために必要な「道具」なのだと思います。子供と言われる時代は，この道具の価値と使い方を学んでいるのです。学校教育では，これら道具の持つ価値と正しい使い方を学びます。そして，年齢が進むごとに，より高度な使い方を学ぶことで，頭の中の引き出しの数を増やしていくのです。高校で学ぶ科目の全てを「受験のために必要だから」という考えでとらえてしまうと，受験に必要でない科目をないがしろにするのは言うまでも無く，受験科目といえども，めでたく大学生になった瞬間に用済みになったと勘違いをしてしまいます。

大学入試では，高校までに学んだ道具の意味とその使い方をどれくらい知っているかが試されます。それは，これから始まる大学教育・研究において，必要な道具は持っているのか，その道具の使い方をどの程度知っているのかの判断が重要となるからです。大学では最先端の知識を学び，その知識からさらに新しい知識・知見を見出していきます。そのためには，自分の頭で考えることが必要になります。では，ただボーッと考えているだけで何かが閃くものでしょうか？著名人のエピソードで，庭を散歩していたら何かが閃いてノーベル賞に繋がった・・などという話を聞くことがありますが，このようなことは，誰にでも起こりうるのでしょうか？この人たちは，ボーッと考えていただけではなく，対象

としている問題に対しての解決策を色々と模索しています。このとき，自分の頭にある知識（引き出し）を総動員しているはずです。この引き出しが多い人が解決へのスピードが速いと思いますが，引き出しの多さだけでは不十分で，必要なのはその使い方を知っている人です。高校までに学んでいる事の多くは，この引き出しを増やすことと，そして，様々な使い方を学ぶことに繋がっています。勿論，大学でも多くを学び，さらに引き出しを増やすことになります。その引き出しには自立して生きていくために必要な「もの」が詰まっているのです。

さて，この「引き出し」は，それ自体は物の詰まったただの箱にすぎません。この箱を雑多に並べ積んだとしてもあまり役には立たないでしょう。使い勝手の良い，役に立つ引き出しとして機能させるためには，その箱をきちんと収める枠組みが必要になります。この枠組みは何でしょうか。それこそが，人格であり，その人を個として特徴づけるものだと思います。これは学校教育の中で形作られるものではなく，生まれた家庭環境の中で最初の形が作られ，そして，その人を取り巻く家庭環境と社会環境の中でより特徴づけられた形に成長していくものだと思います。これは，教えに従って自分の意思で作り上げるというよりは，知らず知らずの内に形成されていくものではないでしょうか。自分の置かれた環境の中で生活し見聞きをしたことが，その人の「人となり」を形成し，引き出しを収める枠組みが人毎に違った形に成長していくのだと思います。冒頭で述べた年齢が進むごとに目標が絞られていくのは，知らず知らずのうちに，そのように考える「枠組み」が形成されたからではないでしょうか。枠組みの形成に重要な影響を及ぼしたのは，他でもない，親であり大人です。枠組みの形成にはある程度の時間も必要です。それは，枠組みの形成が，何かを「教える」ことによるものでは無く「伝える」ことにあるからだと思います。伝えるのは親（大人）の役目です。「言って聞かせて押し付けて」では伸びしろを奪ってしまいます。子を思えばこそ，「伝える」ことの大切さを再認識し，自ら範となる行動を起こすべきかと思います。「伝える」には時間が必要です。でも，この時間こそが人の成長には必要であり，真に成熟した人間社会の実現への近道となるのだと思います。